

# 秋田城址公園のイメージの構造について

岩手大学工学部 正会員 安藤 昭  
 岩手大学工学部 学生会員 吳 尚道  
 岩手大学工学部 学生会員 黒沢 誠

## 1. はじめ

日本における急激な都市化の進行は全国的規模での都市時代といえる段階を迎えている。既存の大都市が種々の問題に直面し、その計画が大きな困難に打ち当たっている時地方の中核都市を中心とした今後の都市計画のいかんが将来の都市計画に新しい手法と内容をもたらす得る可能性を秘めているといえる。こうした期待の中で都市の住民の暮らしと街づくりの歴史において文化的にも地理的にも大きな位置を占めてきた文化景観-城郭は都市計画におおむね重要な役割を果たすものとして注目される。なかでも城郭を中心とした個性的で魅力的な都市づくりというテーマは地方都市における都市計画のテーマとしては重要な内容を提起したものでないだろうか。本研究はこのような観点にたち景観の素計画さをも明らかにされ多くの問題を抱えている小規模の城址に着目し城址の構造物のイメージの構造の分析を通じてこれらの問題の解決と城址の望ましいあり方を追求しようとするものである。

## 2. 人間と環境

本来、環境という語は物理学において運動する物質に対して、それが通過する物質的な空間の意味に用いられたがその後一般に作用するものに対してその場所の全状況ささすようになったといわれる。このように環境とは主体あつた場であるの、相対的な概念であることを忘れてはならない。したがって環境研究の課題は人間ととりまく周囲の諸条件から人間が知覚している特徴をみだしその対応関係系を明らかにすることすなわち現実環境(real environment)と知覚環境(perceived environment)の対応関係系を分析することである。

## 3. 秋田城址公園のイメージの分析

秋田城址公園のイメージを①イメージマップによるイメージの内容の分析②公園内構造物に関するイメージの構造の分析、この二つの観点から分析した。特に構造物(主に建物)に着目したのは風景計画がたやすいことと分析が容易であることの二つの理由による。調査対象地域とイメージの分析結果および構造物のイメージの分析結果をFig1, Fig2, Fig3に示す。なお被験者は秋田大学の学生241名である。

### 3-1. イメージマップの特徴

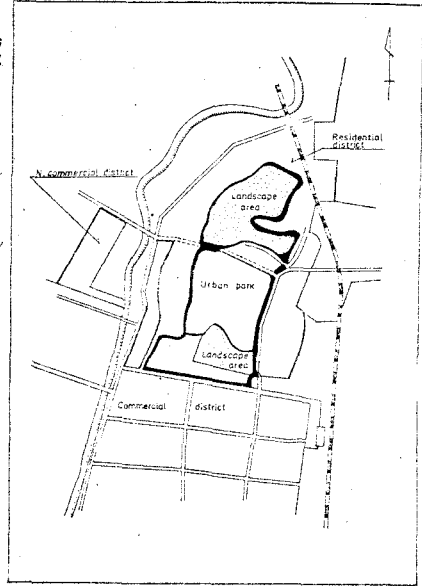


Fig. 1 The present condition on the park of Akita castle ruins.

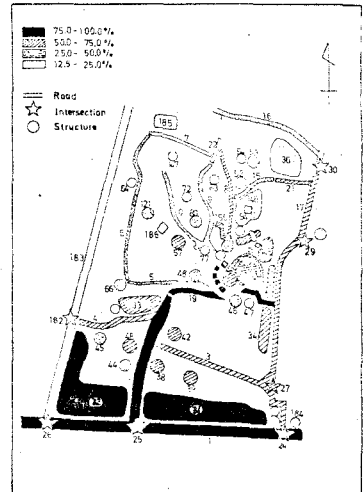


Fig. 2 Image map on the park of Akita castle ruins. (University students, 241 persons.)

(1). 当城址公園の公園区域はFig1, Fig2に示されるように道路5, 6, 16, 17によって示される部分であるが公園区域外の公園の南側の豪 (Fig2の黒い部分, Photo 1) が一体的にイメージされる。これは城郭と公園区域が一致していないためであり公園周辺のOpen spaceの構造によるものと思われる

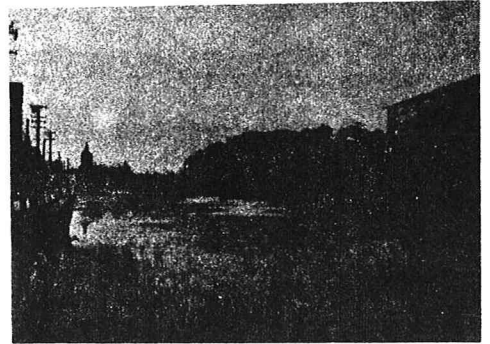


Photo 1 The moot in front of the park

(2). 公園の北側(出丸の部分)は現在は瓦敷地区となっているが城址公園としてはまったくイメージされていない

(3). 城址公園の西側の境界が漠然としていた

(4). 特にきわだててイメージされている建物はみあたらない。(公園のSymbol) また個人の住宅群が現れない。  
3-2. 公園内精造物(建物)に関するイメージの因子の特徴

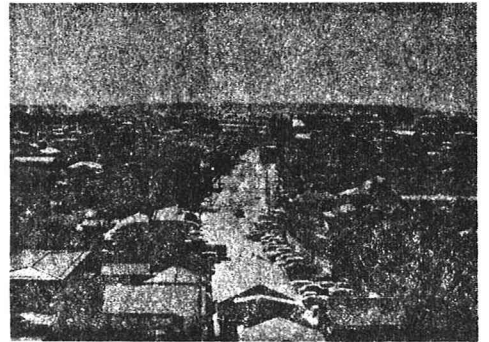


Photo 2 The road near by the park

(1). 使用強度と大きさに関する因子のスコアとレンジが大きくなっている。この傾向は盛岡城址公園とは異なるものであり両城址公園の外性格を示すものであると思われる。

(2). 象徴度のスコアがきわめて低い。

(3). 輪郭と色彩の因子はイメージに影響していない。

(4). 看板のスコアが中位の値を示している。

(5). 輪郭と視認強度, 大きさと形と材質の2つのグループはみとつの要因として扱ってよいことが示された。

#### 4. 城址公園の景観的特徴と問題点

(1). 当城址公園は公園区域外にある豪によって代表的にイメージされているので公園区域の設定領域をこの領域まで広げることが望まれる

(2). Photo2に示された道路が(Fig1の点線)で示されることにより、現在の公園のイメージは破壊されないとは言えるものの道路が通ることによって城郭の一部である地の出丸はまったく城址としてイメージされなくなるであろう。

(3). イメージは主に大きさの因子と使用強度の因子に支配される。このことが地の出丸(ほとんど宅地化されている)や城郭内の住宅群がイメージ的に出現しない原因と思われる。宅地化を求めていくことは城址のイメージを空洞化していくことであると思われる。

最後に本研究を進めるにあたって暖かい御指導と受け適切な御意見をいただいた北沢工学部五十歳日出夫教授に謝意を表します。

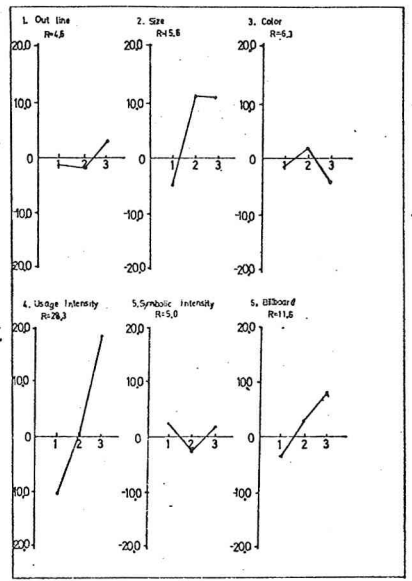


Fig3 Analytical result of the theory of quantification on the structure in the park of Akita castle ruins.